



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

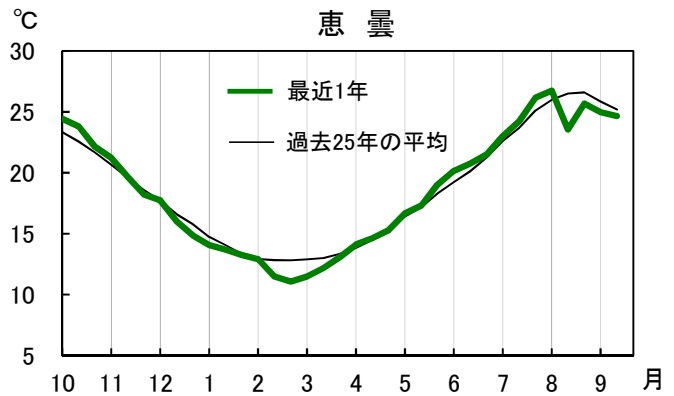
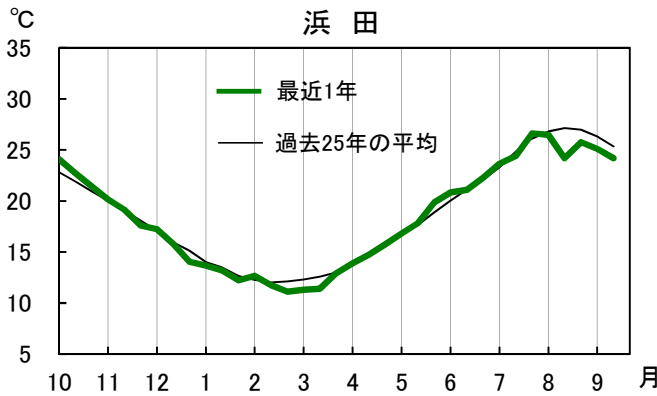
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

## 《8～9月の海況》

8月	月平均	平年差	評価
浜田	25.5℃	-1.5℃	やや低め
恵曇	25.3℃	-1.1℃	やや低め

沿岸定地水温は、浜田地区・恵曇地区ともに8月上旬は「平年並み」でしたが、8月中旬に「かなり低め」に急転しました。8月下旬以降、9月中旬までは、浜田地区は「やや低め」、恵曇地区は「平年並み」で経過しています。



## 《8月の漁況》

### 【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1 統 1 航海当りの漁獲量は平年を下回りました。この時期主体となるマアジは平年の 6 割、サバ類は 3 割でした。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、ブリ、カタクチイワシ主体の漁況で、1 統 1 航海当りの漁獲量は西郷で平年を上回り、浦郷で平年並みとなりました。この時期主体となるマアジはそれぞれ平年の 2.6 倍、2.7 倍と、過去 5 年間で最大となりました。

### 【イカ釣漁業】

浜田地区（属地 5 トン以上）では、前月に続きケンサキイカ主体（全体の 61%）で、スルメイカ（全体の 39%）も混じる漁況となり、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 299kg で平年を上回りました。一方、西郷地区（属人 5 トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の 99%）の漁況で、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 43 kg で平年を下回りました。スルメイカは全体の 1% でした。

### 【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ主体の漁獲でした。1 統 1 航海当たり漁獲量は 10.9 トンで、前年の 1.3 倍でしたが、平年（過去 10 年平均）並みの水揚げとなりました。この時期漁獲の多いムシガレイは平年の 9 割、ケンサキイカは平年の 6 割の水揚げに留まりました。一方、キダイ、ソウハチ、アカムツは好調に推移し、平年の 2.9～1.3 倍の水揚げとなりました。

### 【ばいかご漁業】

石見地区のばいかご漁業における総漁獲量は 10 トン、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 640kg で前年、平年を上回りました。また主漁獲対象であるエッチュウバイの漁獲量は 7.9 トン、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 495kg で、平年並みの水揚げとなりました。銘柄「大」、「中大」を主体に、銘柄「中」が多く漁獲されています。

### 【しいら漬け漁業】

石見地区のしいら漬け漁業はシイラ主体の漁況で、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 2.1 トンと平年の 1.9 倍でした。しかし、出漁日数が少なかったため、シイラの漁獲量は平年の 7 割に留まりました。

### 【定置網漁業】

石見地区ではサワラ類、マアジ主体の漁況で、1 統当りではサワラ類、マアジ類が平年を大きく上回ったものの、この時期良く漁獲されるカンパチが平年の 1 割だったため、結果として全統の総漁獲量は平年を下回りました。出雲地区ではサワラ類主体の漁況で、1 統当りではサワラ類が平年を上回り、その他の魚種は概ね平年並みだったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。隠岐地区ではブリ主体の漁況で、1 統当りではブリが平年を上回ったものの、ケンサキイカ、カワハギ類を含む多くの魚種が平年を下回ったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。

### 【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカ、マダイ、マアジが主に漁獲され、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 23 kg で平年を下回りました。石見地区でケンサキイカ、ヒラマサ、アマダイが主に漁獲され、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 18 kg で平年を下回りました。隠岐地区ではケンサキイカ、カサゴ・メバル類、マダイが主に漁獲され、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 20 kg で平年を下回りました。

【平成 26 年 8 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類	153トン	109%	51%	5.5トン	97%	59%	▲
	西郷	マアジ、ブリ、カタクチイワシ	3,203トン	132%	126%	40.5トン	117%	140%	◎
	浦郷	マアジ	1,650トン	103%	114%	26.4トン	95%	99%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	64トン	86%	88%	299kg	123%	176%	◎
	西郷	ケンサキイカ	7トン	77%	34%	43kg	111%	64%	▲
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ	163トン	130%	94%	11トン	130%	109%	○
ばいかご	大田管内	エッチュウバイ	10トン	66%	68%	640kg	120%	115%	◎
しいら漬け	和江	シイラ	15トン	74%	73%	2.4トン	123%	254%	◎
定置網 (大型)	浜田	マアジ、サワラ類	26トン	110%	108%	1.4トン	115%	177%	◎
	美保関	サワラ類、その他のマグロ類	37トン	117%	55%	438kg	131%	60%	○
	浦郷	ブリ	9トン	84%	71%	367kg	70%	63%	▲
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ、ヒラマサ	6トン	69%	28%	22kg	85%	59%	▲
	大社	ケンサキイカ、マアジ、カサゴ・メバル類	4トン	67%	57%	12kg	79%	78%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、メダイ、ケンサキイカ	4トン	57%	31%	23kg	103%	75%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした。

# 【ケンサキイカ情報】

発行日：平成26年9月25日

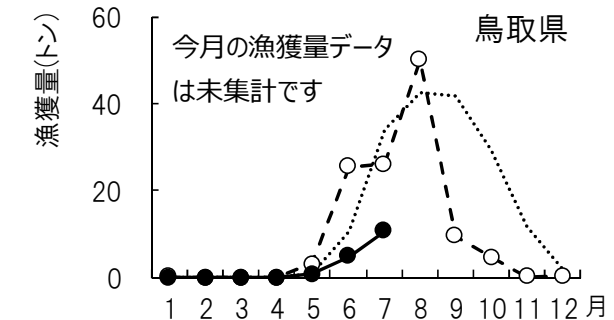
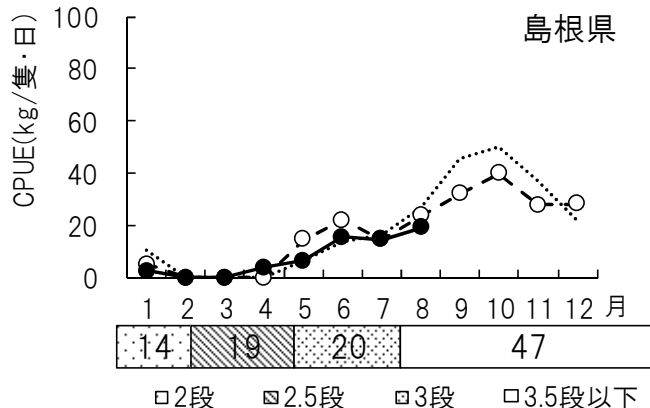
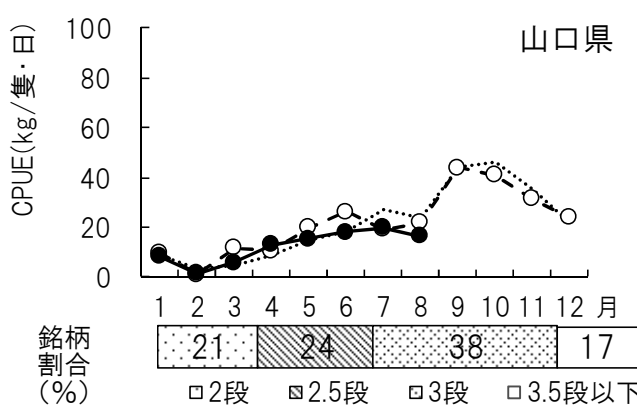
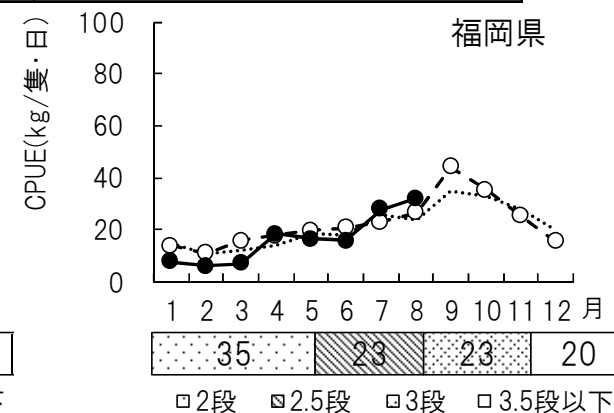
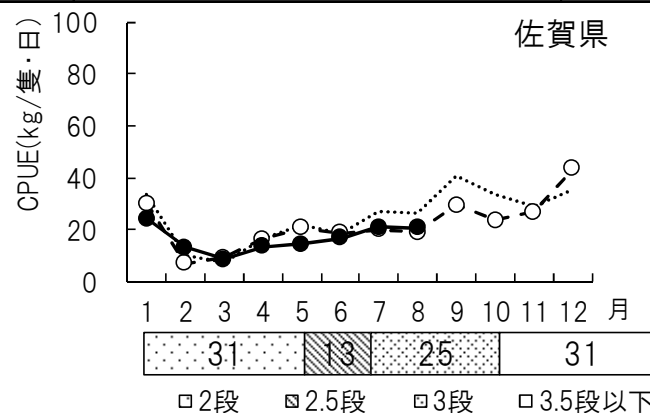
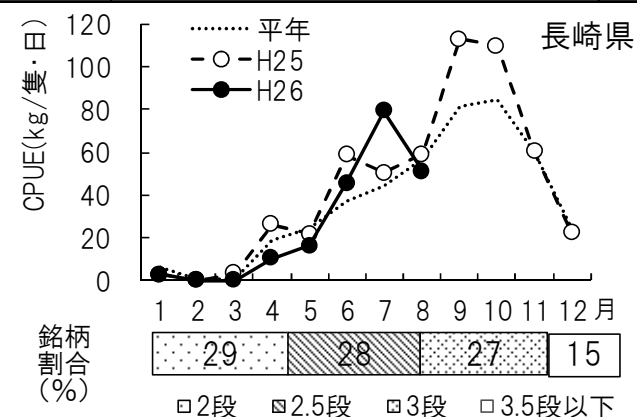
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

## I：8月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

漁獲量で見ると、前年・平年並みであった福岡県以外は、軒並み低調のようです。

長崎県	8月の漁獲量は前年・平年を大きく下回りました(前年比49%、平年比58%)。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年・平年を下回りました(前年同月比70%、平年同月比51%)。	福岡県	代表港の8月のCPUEは平年を上回り、漁獲量は前年比109%、平年比103%でした。また1～8月の累積漁獲量は前年比80%、平年比79%と7月に引き続き低調に推移しています。
山口県	代表2港の漁獲量は前年・平年をかなり下回りました(前年比69%、平年比43%)。	島根県	主要7港の水揚量は73トンで、前年・平年を下回りました(前年比56%、平年比51%)。	鳥取県	8月の漁獲量は集計中ですが、7月までの漁獲量は前年及び平年の値を大きく下回りました(前年比31%、平年比37%)。



※平年は過去5年(H21～H25)の平均値

## Ⅱ：9月上旬の底層水温

長崎県	9月は五島西沖で観測していません。	佐賀県	壱岐水道は22.7～24.0℃でやや低め～ 平年並み、対馬東水道は15.3～21.5℃で 平年並みでした。	福岡県	沿岸域では21～23℃台でやや低め、沖 合域では16～20℃台で平年並みからや や高めとなっています。
山口県	7～22℃台で、沖合域の一部を除きほぼ 平年並みでした。	島根県	水深200m以浅では、温泉津沖は2～ 9℃でやや低め～平年並み、高山沖は 3～20℃で、沿岸側は平年並み～やや 高め、沖合側はかなり低め～平年並み でした。	鳥取県	島根県東部から鳥取県西部の水深100m の海域の水温は16℃前後。鳥取県東部 海域には冷水塊があるため水深100mの 海域の水温は12～15℃の値となっていま す。

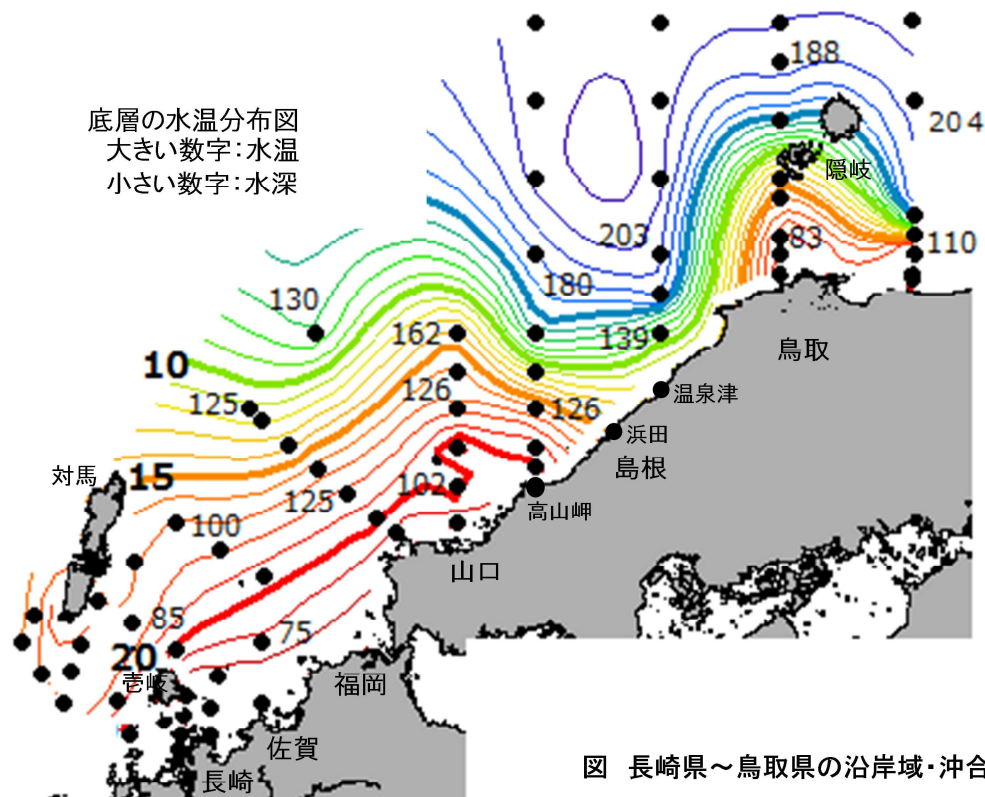


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図